

校長室から

学校教育目標

　　「知・徳・体、調和のとれた生徒の育成」

　　　　　　　～進取的な努力をする人材の育成～

令和4年6月3日　第9号

がまんすること

新聞を読んでいますと、最近レコードが流行っているとか。最新の音楽が即時ダウロ－ドできて、CDやMD(知らんやろ～)、カセットテ－プ(見たことないやろ～)など昭和の遺物と思っていたのに、ここにきてレコード。古い時代の保管状況がいいレコードは高値で取引されて、なんでもスマホで注文しすぐに家に届く時代に、わざわざレコ－ド専門ショップまでできているとか。

この世界的な現象をどう考えるか。

若いデジタルが当たり前の世代がわざわざプレ－ヤ－にレコードを載せて、慎重に針を落とす。しばらく、ざらざらとした雑音を聞いた後、音が流れてくる。ボタン一つでハイクウオリティの音質が飛び込んでくることに慣れた耳には、この最初のざらざら音はどう聞こえているのか。

推測するのに、世界中の人がデジタルに疲れてきているのでは。

ときどき田舎へ行くと、昭和の香りが色濃く残る商店街に出会うことがあります。はじめて来た場所なのになぜか懐かしい。そこには、その時代の時間の早さが空気の中に残っていて、それを五感で感じているのかも。

六月に入って授業を大切に真摯に勉強を続ける人とそうでない人の「差」が明確になってきていると思います。その「差」は、いずれそれぞれの人生の時間にご褒美となってまたは、罰となって返ってきます。これまで何人もの卒業生がその現実を教えてくれています。

アナログは時間がかかり時に「がまん」が必要です。

今世界中の人々が「がまん」を求めているのでないでしょうか。